

2018年度教員による授業相互参観実施状況報告書(集約結果一覧)

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
法学部	(法律学科)9科目 (政治学科)専任教員全科目 (国際政治学科)専任教員全科目	(法律学科)6科目 (政治学科)4科目 (国際政治学科)3科目 (演習:ゼミ)	(法律学科)2018年度からご担当いただいた教員、および、法律学科が重視している初年次教育を担当している教員の科目を重点に公開科目を選定した。とりわけ初年次の少人数教育である「法学入門演習」については、授業参観実施によって共有された問題意識にもとづき、FDカリキュラム委員会で議論が展開した。 (政治学科)春学期において二つの「演習」で授業相互参観を実施。各ゼミ生は、それぞれの演習での学習の成果を発表し、ほかのゼミ学生のみならず、演習担当の諸教員からもコメント・質問を受けた。この合同発表会を通して、「演習」の学習成果を比較検討できたとともに、各教員の学生にたいするプレゼンテーションの指導の方法を共有することができ、非常に有意義だった。 「公共政策フィールドワーク」および「現代政策学特講Ⅰ(千代田区)/Ⅱ(沖縄)」では、夏期休暇中に、複数の教員の引率のもと夕張や沖縄で地方自治体が抱える問題、また、千代田区では大都市が抱える問題点をなどについて自治体の職員と意見交換するなど実践学習を行なった。教員全員がお互いに他の教員の説明を聞き、かつ集団指導のなかで、各教員は、それぞれの地域政治・地方自治にかんする知見を共有するとともに、ほかの教員の考察・分析の視点から自身の考察・分析を再検討する機会を得ることができた。 (国際政治学科)専任教員がそれぞれ担当する「演習(ゼミ)」のうち、海外研修を実施した3つのゼミが「海外研修合同報告会」を11月に行った。各ゼミの学生は、それぞれの海外研修の内容と学習の成果を発表し、他のゼミの学生および演習担当の諸教員からの質問・コメントに答えた。この合同報告会を通じて、学生は自分が参加した海外研修の成果を振り返る良い機会となっただけでなく、他のゼミの海外研修の企画、テーマ・問いの設定、現地調査の方法、運営、プレゼンテーションなどを比較検討して、そこから多くのことを学ぶことができた。	(法律学科)参観希望を申し出た教員が確実に参加するよう促す方策を検討する必要がある。 (政治学科)昨年度の課題でもあった学科教員によるオムニバス形式の講義である「政治学の基礎概念Ⅰ・Ⅱ」については、今年度、各授業の相互連関が十分に実施できなかった。このプログラムが、授業間の有機的連関を図る一助にならないか、2019年度の政治学科会議で検討する方針である。 (国際政治学科)学生がゼミの「海外研修合同報告会」から得られる学びは大きいので、次年度以降も実施するようしたい。この報告会の内容は1年生にも参考になるので、より多くの1年生の参加を求めたい。
文学部	66科目	4科目	例年通り、5月に公開科目を一覧表にして、専任教員に配布した。 授業相互参観が実施されたのは4科目であり、うち2科目は文学部共通科目(「文学部生のキャリア形成」と「現代のコモンセンス」)であった。参観者数は計13名であった。 昨年度に引き続き、FDミーティング等(授業に関する意見交換会や反省会を含む)を実施した。特に英文学科では科研費プログラムを立ち上げて学科教育の向上に務めていることは特筆される。実施回数は17回であった。	・新任者着任を踏まえ、将来に向けてより有効なカリキュラム構成や学生指導体制を検討していく。(哲学科) 授業参観の有効活用について、引き続き検討していく。(日本文学科) 1.科研費プロジェクト「英文学導入教育の理念と方法論の研究」をより具体的に進める。(英文学科) 2.卒業論文の指導方法について知見を共有し、指導方針の統一を図る。とくに「基礎ゼミ」や「2年次演習」でやったはずのことが、卒業論文執筆時に生かされるよう指導を強化する。(英文学科) ・教員相互による参観がなかなか進まないの、授業を録画して自己評価する方策を検討したい。(地理学科) ・次年度も引き続き担当教員間の情報共有や意見交換を実施する予定である。(心理学科)
経済学部	73科目	4科目	(1)実施方法 ①公開方法 経済学部専任教員は各担当科目のうち原則1科目は授業相互参観科目とする。 ②参観方法 経済学部所属教員は、所定の期間内にあらかじめ参観申込をしたうえで授業参観することとする。 ③公開期間 2018年6月25日(月)～6月28日(木) (2)授業実施者へのフィードバック等 参観申込み者には、執行部まで①授業担当者に対する感想、②授業相互参観制度に関する意見・感想の提出を依頼した。①授業担当者に対する感想については、授業担当者本人にフィードバックを行った。	(1)公開科目数に対して実施科目数が少なかつたため、実施時期直前の周知を工夫し、実施期間の延長等を検討し、実施科目数を増やし、経済学部の教育力の向上を図ることが今後の課題である。 (2)兼任講師を含めた授業参観の対応については、今後、検討していきたい。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
社会学部	全開講科目	42科目	<p>①オムニバス型の授業での実施(5科目) 教員間で、授業の方法や内容に関する打合せを行っている。参加した教員にとって、今後の授業運営の参考となっている。</p> <p>②本学部ゲスト講師制度を利用した外部講師を招いての授業をとおした実施(37科目) 外部講師を招聘し、その授業を参観するだけでなく、外部講師との意見交換を行った。授業方法や内容に関して、刺激を受けることができた。</p>	<p>授業相互参観を含め、教員間の交流を通して授業の方法・内容のさらなる改善を図ることを促す。また、ゲスト講師制度を利用した授業等の情報の集約・事前の周知は現在も実施しているが、次年度以降もひきつづき徹底する。</p> <p>昨年度に引き続き、今年度も、教員間での個別の授業参観の事例はなかったため、次年度以降も教授会等の場を通して、奨励を強化する。</p>
経営学部	原則として専任・兼任・兼任教員による講義授業とし、演習等の小規模授業は除く。ただし、公開するかどうかは各教員の自由に委ねた。	後述の参考資料の通り 計5件	<p>実施方法 (1) 実施の告知 教授会およびメールによって以下の実施内容について周知した。 (2) 実施期間 2018年5月10日から6月9日とした。学部での公開期間は上記の通りとしたが、2018年5月28日(月)～12月22日(土)の授業期間については相互参観可能とした。 (3) 参観の方法 ① 参観者の範囲と参観: 参観者は経営学部の専任教員と兼任・兼任教員とした。 ② 事前許可: 原則として、参観者は、事前にe-mail等で参観を希望する授業の担当教員に直接申し入れることとした。ただし、専任教員授業の参観を希望する兼任教員、兼任教員授業の参観を希望する専任教員は、経営学部事務を通して担当教員に申し入れることとした。 ③ 入室および退室時間: 授業の妨げにならないように、原則として、入室は授業開始前に、退室は授業終了後とした。ただし、授業途中での入室を希望する場合は、参観の申し入れの際に、その点をあわせて担当教員に申し入れる。 ④ 受講者への告知: 参観教員がいることを受講学生にどう伝えるかは、各教員に一任した。 (4) 参観後のフィードバックと改善 参観後に、参観者は参考になった点等を公開教員および学部執行部に伝えた。</p> <p>効果 授業後、参観した教員から公開した教員へフィードバックが伝えられた。このフィードバックにより参観した教員は、他の教員の授業運営方法を自身の授業への参考とすることが出来る。また、公開した教員はフィードバックによる他者からの意見によって授業運営の改善に繋がる。 以下に参観者のフィードバック例を挙げる。 [授業運営における工夫] ・ 自身の実務経験を授業に取り入れており、イメージしやすい説明だった ・ 授業中に学生の発言を促す仕掛けがあった ・ 授業のはじめに、前回の授業で学んだことの要点を丁寧におさらいすることで、本日の授業内容をより深く理解できるための手助けとなっていた [教材等における工夫] ・ リアクションペーパーを用いて、トピック毎に具体的に理解度を確認し、質問・感想について授業時にフィードバックを行っていた ・ 身近な例による効果的なイントロとして動画を用いてトピックの導入 ・ 知識をインプットするだけでなく、その後、その知識を利用して説く問題を設定することで、知識の定着とその知識を応用する力が身につくように工夫されていた。 [改善すべき点] ・ 1年生向けの授業としては難易度が高いように感じた ・ 本年度は昨年度に比べて実施数が減少した(2017年度実施数17件)。次年度は実施の周知を徹底したい。 ・ 経営学部では次年度から新カリキュラムが始まるため、新カリキュラム科目の参観を積極的に行っていきたい。 ・ 経営学部で実施している学生へのヒアリングや、FDアンケートなど、他の取り組みとの連携を図ることで、学部教育への理解を深めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度は昨年度に比べて実施数が減少した(2017年度実施数17件)。次年度は実施の周知を徹底したい。 ・ 経営学部では次年度から新カリキュラムが始まるため、新カリキュラム科目の参観を積極的に行っていきたい。 ・ 経営学部で実施している学生へのヒアリングや、FDアンケートなど、他の取り組みとの連携を図ることで、学部教育への理解を深めたい。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
国際文化学部	専任教員が担当する全科目。	17科目(春学期9科目、秋学期8科目)。参観教員数は6名(春学期1名、秋学期5名)。	春学期、秋学期ともに、教員から「参観をすすめる授業の科目名・曜日時限・教室・公開時期」を募り、リストにして教授会で共有し、このリストを活用した相互授業参観をよびかけた。それに加え、個別に教員と連絡をとって他学部教員の授業を参観する事例もみられた。(他学部教員による参観は、参観教員数には入れていない。)	参観教員の数は、2016年度の19名、2017年度の13名から大きく減少している。「専任教員は少なくとも2年間で最低一回、他の教員の授業を参観することを目指す」という2014年度3月3日開催の第11回教授会で決定された目標達成には、まだほど遠いと言えよう。参観を促すメールを開催期間中複数回送付するなど、より一層の注意喚起が必要と思われる。その一方で、参観した教員からは例年通り、授業運営における具体的なヒントを得られたとの声があがっている。また参観を機に、授業担当者から参観者に対し授業運営についての相談が行われることもあり、授業中の学生プレゼンテーションへの講評を、参観教員に依頼する、といった例もみられた。これらの事例からも分かるように、授業相互参観は、参観する側だけでなく、授業を公開する側にとっても有意義なものとなっている。こうした効果を学部内で共有していくことが、参加率を上げる一助となるとと思われる。
人間環境学部	全科目	2科目	本学部では1年生を対象に「人間環境学への招待」という授業を春学期に行っており、5つのコースごとにそれぞれ2名程度の教員が各自の専門性を踏まえた講義を行っている(合計10名強)。講義はそれぞれが独立した内容で行った場合もあれば、一つのテーマに沿ってディスカッション形式で行った授業もあり、相互に参観しつつ授業を行うことでお互いの考え方や話し方などを理解し、その後の各人の授業に活かすことができた。 また、フィールドスタディという現地学習が国内外で21コース(2018年度)あり、その中で複数教員が担当するコースが10コースあった。異なった専門領域の教員が協力して参加することで、学問領域を超えた教授方法の工夫などを理解することができた。上記二つの科目はFDの一つである授業相互参観の目的を果たしていると考えられる。	・2019年度着任予定の新任教員による授業参観を実施する。 ・継続課題として、コース内での相互参観および、基礎演習における相互参観を計画し、可能な範囲で実施する。
現代福祉学部	現代福祉学部専任教員の担当科目(ただし、演習・実習科目、情報・調査系科目、言語コミュニケーション科目、その他、担当教員が公開を希望しない科目を除く)	12科目	春学期(6月25日～7月7日)および秋学期(11月26日～12月19日)に実施した。次に挙げるような、授業における様々な工夫について学びを得た。 ・身近な問題を取り上げながら、各自が具体的に考え、理解を深める工夫がなされている。 ・難しい専門用語も、身近な例を挙げて、ユーモアを交えながら説明し、受講者は親しみを持って学んでいる様子だった。 ・授業のシラバスに沿って適宜ゲストスピーカーを招くことで、専門書等から学ぶ文字情報と実務経験者の体験談が有機的に結びつく工夫がなされており、効果的な学習ができる授業であった。 ・4～5名程度の学生が、対面で座る形式の配置をとることで、グループワークにおいて積極的に意見交換ができるよう工夫がなされていた。 ・プレゼンテーションでは、パワーポイントのスライドを用いて制限時間5分で行われており、各グループで調べて問題の背景、調査の手法と結果、問題の考察、解決法や今後の課題などについて簡潔にまとめられていた。 ・説明するだけでなく、学生に「問い」を投げかけ、それに答えていく形で説明を進めており、理解しやすかった。	授業相互参加の数も増えてきているが、教授会メンバ全体での共有には至っていない。今後は、教授会においてアナウンスを行い、より有効な活用へと繋げていきたい。
情報科学部	全科目		今年度は教員の自主的な参観のみが行われた。科目数は7となっているが、件数は30件以上にのぼった。参観の目的は3つに大別された。1) 同一科目を複数名で実施している科目での情報共有 2) 前提科目との情報共有 3) 演習科目でのアクティブラーニングの試行。特に 3) に関しては、複数名で参観したので多様な観点からアクティブラーニング実施上の課題が明らかになった。	自主的な実施では、参観者や目的に偏りが生じてしまうという問題がある。現行カリキュラムが完成年度を迎えたため、カリキュラムのPDCAサイクルのCとして授業参観の役割を整理し、組織的に取り組むための計画を策定するなどして、授業参観の結果を明示的に活用することが望まれる。
キャリアデザイン学部	原則として専任教員全科目	31科目	春学期の5-6月に、教員が公開する授業を学部掲示板で公開し、教授会メンバーで共有して相互参観や相互の授業検討について呼びかけた。また、それとは別に、本学部は実習・体験型の授業が多く、多様な形態で体験・実習を行っているため、担当教員の間で積極的な情報共有を図ることが重要であることから、こうした授業で相互参観、情報共有が適宜積極的に行われた。 具体例としては、複数の教員の指導の下で学生が実習を行っている科目では、この実習成果報告をポスター発表会として外濠校舎のオープンスペースで実施し、学部の教員が随時立ち寄ってコメントをすることにより、成果の共有を行った。また、動画を作成したグループは学部Facebookで共有し、複数の教員がコメントを行った。また、体験型必修選択科目の担当教員が複数回ミーティングを実施し、それぞれの授業内容や体験の具体的な中身に関して緊密な情報交換を行った。	教員の専門科目を中心に授業を公開することを継続していくとともに、相互参観がより積極化に向けた教員相互の理解促進を図っていくことが必要である。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
デザイン工学部	【建築学科】16科目 【都市環境デザイン工学】学科主催の全科目(他学科学生との混成クラスを除く) 【システムデザイン学科】5科目	23科目	<p>【建築学科】1年次から4年次に至る全てのデザインスタジオ科目をはじめとし、卒業研究・卒業設計において、全クラス合同の講評会を行い、兼任を含む教員が相互に他の科目やクラスの内容について理解し議論できるようにしている。さらには、公開の講評会により学内外に対して学習成果を公開し、とくに学外からの評価を受ける機会を設けている。加えて、スタジオ科目、フィールドワークおよび修士設計、卒業設計での優秀作品と、卒業研究の梗概を、それぞれ学科発行誌「法政大学スタジオワークス」、「建築研究」に掲載することで達成状況を共有している。また、年度末には、全スタジオ(デザインスタジオ1～11、造形スタジオ、構法スタジオ、デジタルスタジオ)の専任・兼任教員が一堂に会し、相互参観の感想を基本とした設計教育の振り返りと、新年度方針について討議する機会を設けている。一方、各授業での活用資料や学生の学習成果はもれなくサーバーに蓄積されており、これを学生の自習のため、あるいは教員の授業改善また相互参観のための参考資料として閲覧できる仕組みを設けている。</p> <p>【都市環境デザイン工学】毎年授業のビデオ撮影を実施している。今年度は特に新任教員(専任、兼任)の授業についてビデオ撮影した。撮影したデータを全教員がアクセス可能なJABEE室のPCに保管しており、当該教員および他の教員も視聴した。</p> <p>【システムデザイン学科】実習系の授業において、学科の全教員参加の下、学生の作品制作のプロセスや成果に対して講評やアドバイスをし、その内容を教員が相互にチェックする体制をとっている。このような実施方法をとることで、全教員が一つの実習系授業に責任を持つ指導体制が整っている。</p>	【システムデザイン学科】教員ごとの評価の視点が異なることから、視点を整理する必要があり、来年度以降の課題とする。
理工学部	<p>*専任教員が担当する全科目(主に2018年度秋学期開講402科目)</p> <p>機械工学科:114 電気電子工学科:75 応用情報工学科:70 経営システム工学科:111 創生科学科:136 小金井学部共通:148</p> <p>*専任教員が担当する全科目(主に2018年度秋学期開講402科目)</p> <p>機械工学科:114 電気電子工学科:75 応用情報工学科:70 経営システム工学科:111 創生科学科:136 小金井学部共通:148</p>	59科目(機械8, 電気6, 応情11, 経営10, 創生16, KLAC8)	<p>1.実施時期 主に2018年度秋学期 2.実施方法 以下の2通りを実施した。</p> <p>a)個別授業相互参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分～90分 任意)を調整し、教室内等で参観する。 ・参観した専任教員は、参観報告書(委員会提出用及び担当教員提出用)を記入し、各学科担当委員及び科目担当教員に、個別に提出する。 ・実施期間内に各学科の専任教員数の1/3以上の教員の参観を原則とする。 <p>b)学科に特化した柔軟な運用による公開(学科別)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科別にa)とは別の形式で、学科独自の柔軟な運用を含む授業相互参観について検討・実施する(例 PBL、実験・演習、複数教員担当形式授業、研究室配属説明会、卒業・修士論文中間発表会を用いたプレゼンテーション能力の検討等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観の実施率の向上及び個別の授業参観報告書のフィードバック方法の検討 ・客観的な授業改善に関するチェックを簡易的に行えるシステムの検討(報告書含む) ・兼任講師を含めた、全授業における授業相互参観を継続
生命科学部	春学期 94 秋学期 90	春学期 18(参観回数24) 秋学期 23(参観回数26)	<p>生命科学部では、今年度、春学期(6月4日～6月30日)と秋学期(10月25日～11月24日)の2回、法政大学の全教職員向けに授業公開を実施した。授業進度の異なる部分を参観してほしいという積極的な意見を反映し、今年度は秋学期の公開の時期を例年よりも2週間早めて実施した。公開科目数は昨年度とほぼ同数であった。授業参観者アンケート自由コメント欄に、今年度から実施された100分授業の進め方について、とても参考になったという意見があった。</p> <p>過少受講者の授業参観により、スリム化への対処方法を検討する上で参考になった例もあった。</p>	参観者の数が昨年度に比べて30%近く減少した。相互参観が定着しているものの、一方でマンネリ化を指摘する声もあった。来年度に向けて、これまで参加していなかった教員に参加してもらう方が必要である。

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
グローバル教養学部	17科目(春学期:8科目、秋学期:9科目)	17科目(春学期:8科目、秋学期:9科目)	学部長と任期付き教員を除く専任教員全員が、各自の専門分野に関わらず、新規採用された兼任教員の科目を中心に、合計17科目の授業を6月と11月に参観した。授業の具体的な進行のみならず、科目の内容やレベルがカリキュラムポリシーに合致するかを確認することも目的であった。授業後に個別面談を行うなど、該当教員に結果を詳しくフィードバックすると共に、報告書を学部ポータルに掲載して教授会全員で情報を共有した。兼任教員には学部の特徴である少人数のアクティブラーニングについてアドバイスをを行ったが、兼任の創意工夫には専任教員が学ぶべき点も多く、双方の教員とって得るものが大きかった。さらに、FDワークショップ(春学期は7月18日、秋学期は11月28日に開催)には専任教員全員が出席し、授業参観により得られた知見を基に効果的な教授法と英語力向上について活発な議論を交わした。授業相互参観は、このように学部のFD活動に大きな役割を果たしている。	今年度と同様の日程と手順で授業参観を実施する。2019年度は現行カリキュラムの最終年度に当たり、2020年度に導入される新カリキュラムへの円滑な移行が求められる。その準備として、新カリキュラムに繋がる新規採用教員に焦点を当てた参観を予定している。
スポーツ健康学部	全科目	9科目	積極的な授業相互参観を促したが、関連科目あるいは同様分野の教員間による参観はこれまでに既に行われていて相互参観実施数は、前年度に比べ減少している。	今後は、ゲスト講師、オムニバスでの科目あるいは、オンデマンド授業などの関連教員には相互参観を行うよう義務付けたい。
市ヶ谷リベラルアーツセンター	全科目	0科目	2014年度に取り決めた内部質保証活動の項目として、次の3パターンに分類した、1.新任教員が参観者となる研修型。2.授業相互参観(FD推進センター提唱)。3.ビデオ機材を利用したセルフ型授業参観。でFD活動を実施した。更に2016年度は左記3パターンに加えて、兼任教員との授業運営懇談会の場等を通じて、4.教員相互授業情報交換会をFD活動の一環として実施し、その内容を市ヶ谷リベラルアーツセンター独自フォーマットにて報告を行い、年度末に開催した内部質保証委員会で共有し、一定の効果が認められた事を確認した。また、先駆的な取り組みなどは次年度のILAC運営委員会において内容を共有する予定である。	次年度以降も上述4つの形式によるFD活動を継承・推進させていくとともに、授業の方法・学生の反応・アクティブラーニングその他に関する授業運営の工夫などについて、授業の質の向上を相互に図るための仕組みづくりを構築したい。また、質保証の観点から大人数授業科目の受講者数適正化に向けた取り組みの議論を深めていきたい。
小金井リベラルアーツセンター	専任教員が担当する全科目・および兼任講師が担当する一部科目 合計 約130科目(理工学部主催約100科目、生命科学部主催約30科目)	理工学部主催:8科目 生命科学部主催:4科目	1.実施時期 春学期・秋学期授業実施期間 2.実施方法 個別授業相互参観を基本とした。 ・専任教員は全ての担当科目を原則公開とし、期間内に授業相互参観可能な日程を設定する。兼任教員については期間内での相互参観の可否を伺い、可能な場合には日程を設定していただく。 ・理工学部は、専任教員が、授業担当教員に連絡の上所定期間内に自由に授業参観をすることができる。生命科学部は、事務が各科目につき公開可能な日程をまとめ、全学の教職員にホームページ上で公開する。 ・相互参観希望者は、科目、曜日、希望参観時間(15分~100分・任意)を事前調整し、教室等内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書を記入し提出する。	・授業相互参観の実施率の向上のための具体策を検討する。 ・個別の授業参観報告書のフィードバック方法の検討する。 ・KLAC関連科目について、効率的な授業公開・授業参観の方法を理工、生命両学部と検討する。 ・組織的な授業相互参観重点科目の設定を検討する。